

## 第2章 景観に関する住民アンケート調査

### 1 アンケート調査の実施内容

#### 1) 意向調査の目的

本調査は、平成17年6月に「景観法」が全面施行となったことを受け、鬼北町では景観法の活用を含め、今後の景観行政の進め方を検討することとし、平成26、27年度において「鬼北町景観計画」を策定することとなり、鬼北町の景観づくりを住民、事業者、行政が一体となって進めるうえで、今後、どのように取り組んでいくべきかを検討するため実施することを目的とします。

#### 2) 実施方法及び実施時期

##### (1) 調査対象者

町内在住の15歳以上から、無作為での抽出した1,000人

##### (2) 調査方法

郵送による配布・回収（無記名）

##### (3) 調査時期

平成27年 2月16日～ 3月 2日

##### (4) 回収率等

配布数 1,000票、 回収 479票 回収率 47.9%

##### (5) 意向調査票

資料編に掲載

### 2. アンケート調査の概要

#### 1) 回答者自身について

##### <性別>

回答者の性別では、女性が約10ポイント男性より高い結果となった。

##### <年齢>

回答者の年齢別を見ると、比較的バランスよく回答を得ることができた。その中でも70歳代の回答者がほかの年齢層より若干多い結果となりました。

##### <職業>

職業別では、「会社員・公務員」が最も多く、次いで「無職」「自営業」が多い結果となりました。

## ＜居住年数＞

居住年数では、「20年以上」が約7割となり、次いで「10年以上20年未満」が高い結果となり、この2つが大半を占めていることから、長年居住している町民が多いことが分かりました。

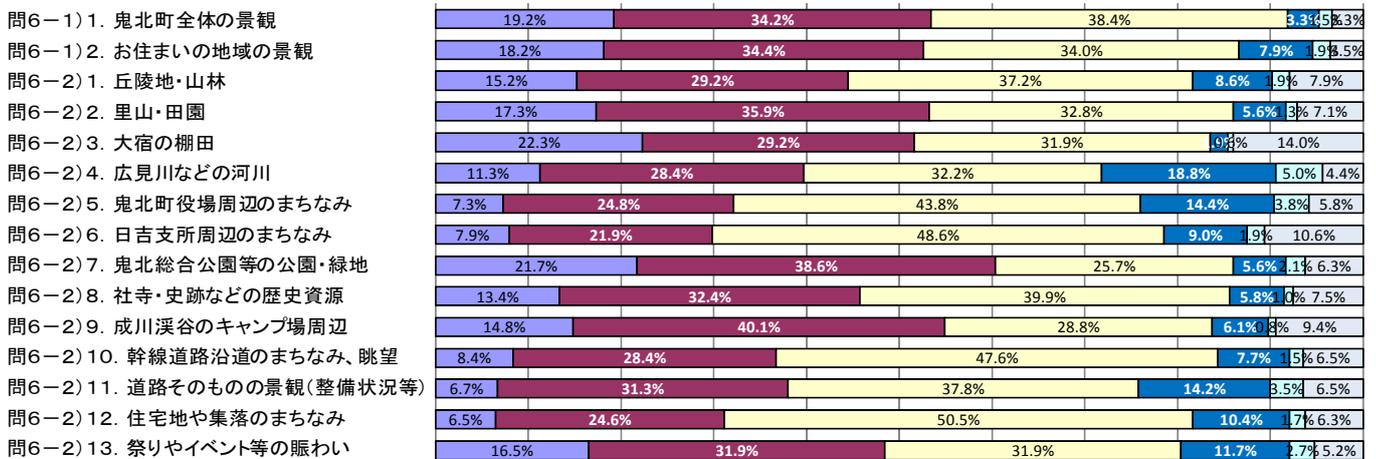
## 2) 景観の現状について

景観の現状に対しては、「鬼北町全体の景観」及び「地域の景観」の両方とも「良い」「やや良い」が過半数を超え、一方「やや悪い」「悪い」が1割前後となっており、これらから多くの町民は、鬼北町の景観に対して良好な景観としての意識を持っていることが伺われます。

個別の景観特性別では、「良い」「やや良い」と答えた人の多かった景観特性は「鬼北総合公園等の公園・緑地」「成川溪谷のキャンプ場周辺」「里山・田園」「大宿の棚田」の順となっており、ともに過半数を超えています。一方、「やや悪い」「悪い」と答えた人の多い景観特性は「広見川などの河川」「道路そのものの景観」「鬼北町役場周辺のまちなみ」「祭りやイベント等の賑わい」となっています。全体的に「どちらともいえない」と答えた人が多いのも本町の景観に対する特徴といえます。

町民の良好な景観としては、純粋に自然景観としての存在より、ある程度人工的に手を加えて景観を保全している景観要素が町民から評価されている傾向にあるといえます。一方、景観上悪いと答えた景観特性の傾向として、河川や道路などの公共施設が挙げられているが、このことはこれまでの公共施設整備は機能を優先した結果、必ずしも景観に配慮した整備となっていなかったことと考えられ、今後の整備では、周辺と整合をとり、景観にも配慮した整備を行う必要があるものといえます。

### 【問6】 鬼北町の景観の現状について



回答者数 479

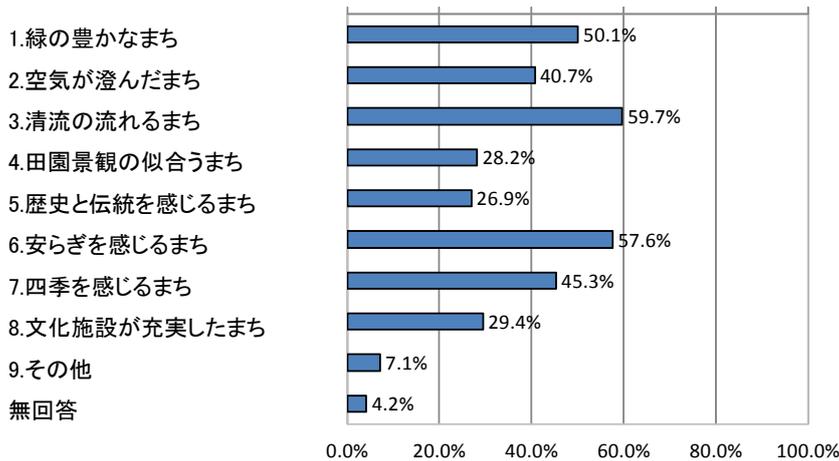
■ 良い ■ やや良い □ どちらともいえない ■ やや悪い □ 悪い □ 無回答

### 3) 今後の景観づくりについて

#### <景観づくりの将来像>

景観づくりを進める上での将来像については、「清流の流れるまち」「安らぎを感じるまち」「緑の豊かなまち」「四季を感じるまち」の順となっており、現状の緑豊かな鬼北町の景観に対して、今後もその良さを活かしたまちづくりを望んでいる傾向にあることが伺われました。

【問7】景観づくりを進めるうえでの将来像



回答者数 479、回答数1,673

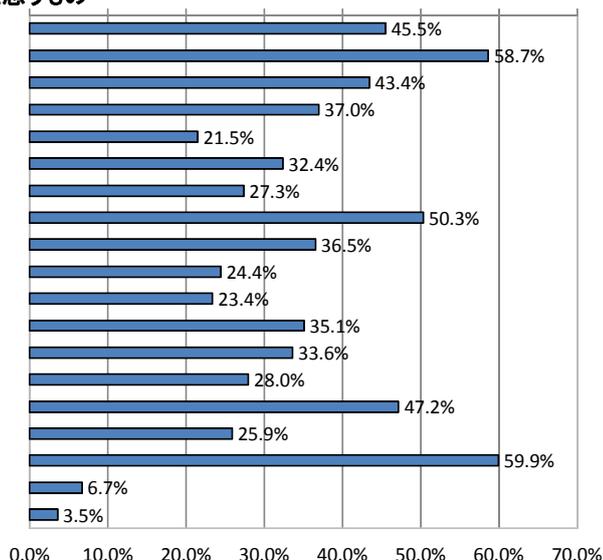
#### <今後の景観づくりについて>

今後良好な景観づくりを行う上で重要なこととして、回答数の多かったのは「祭りやイベント等の活性化」「水辺景観の維持・保全」「耕作放棄地を利活用した鬼北町らしい風景づくり」「地域景観に配慮した各種の公共建築物、道路、公園等を主体とした景観整備」「豊かな自然環境と森林資源の維持管理、レクリエーション活用の促進」「動植物の生息環境を守る」の順となっています。

これらから鬼北町の住民は、現在の本町の特徴ともなっている豊富な森林などの自然景観や、四万十川の支川などの景観財産を維持・管理するとともに、それらを利活用したレクリエーションやイベントの開催、耕作放棄地の利活用などにより観光面でも充実させ、町内住民や来町者を増やして本町を活性化させるとともに、景観づくりを並行して進めることを望んでいるといえます。

**【問8】良好な景観づくりを進めるうえで、特に重要、あるいは残したいと思うもの**

1. 豊かな自然環境と森林資源の維持管理、レクリエーション活用の促進
  2. 水辺景観の維持・保全
  3. 動植物の生息環境を守る
  4. 花の名所を各地に増やす
  5. 優れた眺望を守る
  6. 里山と農地、集落が一体となった農山村の景観を守る
  7. 特色ある田園景観を守る
  8. 耕作放棄地を活用した鬼北町らしい風景づくり
  9. 歴史遺産の保全とまちづくりへの活用
  10. まちなみの保存とまちづくり
  11. 歴史資産の保全とまちづくり
  12. 町や地域の中心地の魅力向上と賑わいづくり
  13. 幹線道路沿道の良好なまちなみ景観の形成
  14. 住宅地や集落の良好なまちなみ景観の形成
  15. 地域景観に配慮した各種の公共建築物、道路、公園等を主体とした景観整備
  16. 多様な景観資源が楽しめるウォーキングコースづくり
  17. 祭りやイベント等の活性化
  18. その他
- 無回答

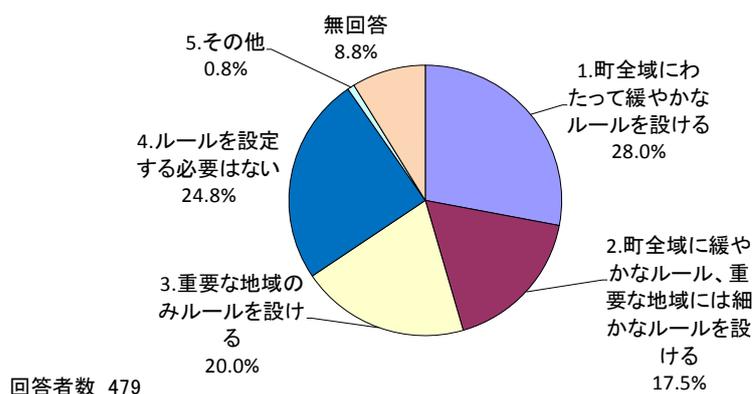


回答者数 479、回答数3,067

**<景観づくりの方法>**

景観づくりの方法としての規制（ルール）については、回答数の多かった順で「町全域にわたって緩やかなルールを設ける」「ルールを設定する必要はない」「重要な地域のみルールを設ける」「町全域に緩やかなルール、重要な地域には細やかなルールを設ける」となり、多数を占めた回答は見当たらず、町民の意見が分かれる結果となりました。特に相反する「町全域にわたって緩やかなルールを設ける」、「ルールを設定する必要はない」がともに多かったことが特筆され、今回の景観計画を進める上では、これらに配慮する必要があります。

**【問9】景観づくりのための規制（ルール）について**

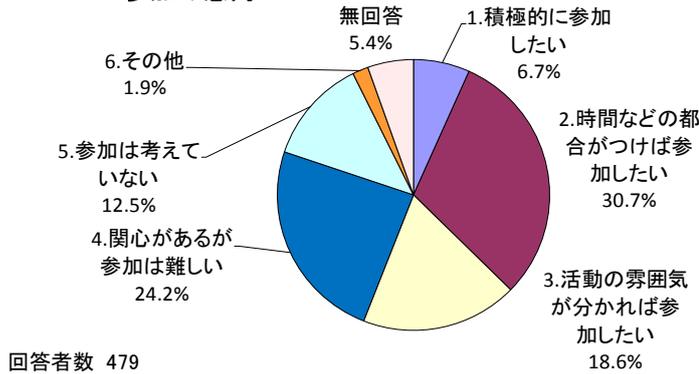


**4) 住民参加による景観づくりについて**

**<住民参加について>**

住民参加については、「参加したい」「時間などの都合がつけば参加したい」「活動の雰囲気がかげれば参加したい」が過半数を占めていることから、地域住民の参加を促進するうえでは、これらのことを考慮したうえで対応する必要があります。

**【問10】 景観を守り、育てるための活動への参加の意向**

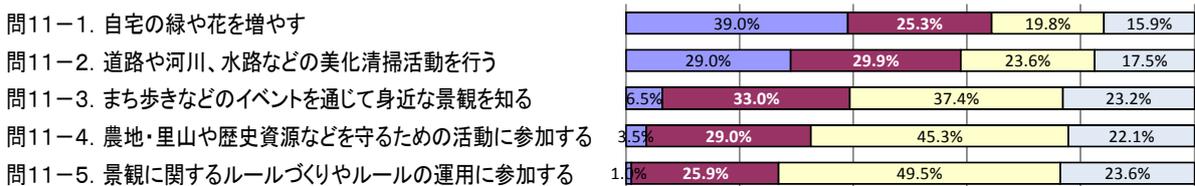


＜取り組んでいる活動等＞

現在取り組んでいる活動として、「自宅の緑や花を増やす」「道路や河川、水路などの美化清掃活動を行う」が多い回答となった。これらについては今後も継続した取り組みの方策を考える必要があります。

その他の「まち歩きなどのイベントを通じて身近な景観を知る」「農地・里山や歴史資源などを守るための活動に参加する」「景観に関するルールづくりやルールの運用に参加する」については現在取り組んでいる人は少ないが、今後取り組みたいと答えた回答者が比較的多かったことから、今後の地域の取り組みを考えるうえでは考慮する必要があります。

**【問11】 景観を良くするための活動への取り組みについて**



回答者数 479

■すでに取り組んでいる ■今後、取り組みたい □特に考えていない □無回答

**5) 自由回答**

景観計画に取り込んでほしい場所として、「内山展望台」「戸祇御前山」「成川溪谷」「奈良川」などの回答が多く見受けられました。

さらに、「道の駅 広見森の三角ぼうし」に最近設置した鬼のオブジェについての意見も多く寄せられました。

具体的に気に入った場所を述べている住民も多い結果となりました。

### 3 全体的な考察

#### 1) 回答率からの意識の高さ

本町では、行政・住民が協働し本格的な景観まちづくりを行っていないにもかかわらず、回答率が48%と高い数値となったが、このことは、鬼北町住民の景観に対する意識の高さが伺われる結果となった。

#### 2) 日常的な景観に対する意識

本町の景観要素は、以前から存在していた自然生態系の景観要素が多く、主要な国道や県道、さらには河川の護岸工事による人工物は改変するが、それ以外はほとんど以前と変わらない風景といっても過言ではなく、今回のようなアンケートなどにより改めて本町の良さが分かるものの、日常的にはほとんど無意識に眺めているものと推察されます。

さらに、今回の意向調査が自分たちの住む「鬼北町」に今まで以上に愛着を感じ、そしてふる里としてさらに住みよい環境づくりへのきっかけになるものと感じられました。

#### 3) 今後の景観づくりへの期待

全体的な傾向として、以前に比べて元気を失った町の様子を気にしている住民が多く、そのことに対してイベントなどにより来町者を増やすとともに、鬼北町の景観面での素晴らしさをPRして、町内及び町外にも鬼北町の良さを知ってもらいたいと考えている町民が多いことも特徴的といえます。

#### 4) 景観づくりの進め方について

景観づくりの方法では住民の意見が分かれ、性急な規制などに対しては受け入れがたい住民感情も感じられることから、今後の景観形成では、十分時間をかけて住民の理解を取りつつ、景観計画を進めることが重要といえます。